

世界史

(問題)

2015年度

<H27093412>

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	<input checked="" type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

	万	千	百	十	一
(例) 3825番⇒		3	8	2	5

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I 中国の官吏登用制度に関するA～Eの文章を読み、設問1～9について解答を一つ選び、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

A 中国の訓詁学は、経書の本文を正しく読解し、そこから^①聖人などの思想を読み取ることが目的として展開した。後漢では経書の解釈学が盛んになり、(あ)や鄭玄らは経書に注釈をほどこした。鄭玄は古文を主として、今文・古文の諸説を折衷統一し、訓詁学を大成した。この学風は唐代に受け継がれ、^③高宗の命により、孔穎達らは顔師古の作った「五経」の定本に基づき、その注釈を集成した『五経正義』を編集し、それは科挙試験の標準となった。一方、唐では^④父祖の官位に応じてその子孫を任用する制度があり、それによって官職を与えられた者も多かった。

設問1 下線部①～④の語句で不適切なものはどれか。

- ① 聖人 ② 後漢 ③ 高宗 ④ 父祖の官位

設問2 空欄(あ)に入る最も適切な語句はどれか。

- ① 馬融 ② 董仲舒 ③ 劉向 ④ 張衡

B 唐初の科挙の科目には明経科・進士科などがあったが、それは官僚への道の一つに過ぎず、また合格して実際に職務につくためには、貴族が牛耳る(い)による「身言書判」を通らなければならなかった。「身言書判」とは貴族としてふさわしい体格風貌、流暢な弁舌、優美な筆遣い、理路整然たる文章力を試験するものである。門閥貴族が消滅した宋は科挙改革を行い、それによって科挙は地方州の解試、中央の省試、最終試験の殿試という三段階の選抜制となった。

設問3 空欄(い)に入る最も適切な語句はどれか。

- ① 吏部 ② 戸部 ③ 礼部 ④ 御史台

設問4 宋代、およびそれ以降の科挙に関して誤っている記述はどれか。

- ① 受験資格は、原則上、家柄や階層を問わなかった。
② 殿試によって、科挙合格者は皇帝と君臣関係だけでなく、師弟関係によっても結ばれた。
③ 科挙官僚は経済力・政治権力にくわえ、知識教養を身につけて、士大夫と呼ばれた。
④ 19世紀末になると、現実に即応しない科挙の試験形式が批判され、戊戌の変法で廃止された。

C モンゴル高原で君主に推戴されたチンギス・ハンは、周辺地域へ遠征し、ユーラシア大陸の東西にまたがるモンゴル帝国を形成した。帝国が分裂すると、第5代フビライは国号を元と改め、大都に遷都し、南宋を滅ぼして中国全土を支配し、チベットや高麗を属国とした。その制度では宋・金以来の官僚制・地方行政制度をひきつぎ、また中央・地方の要職にさまざまな出自の軍人・官僚を家柄や能力に応じて登用したが、科挙は重視されなかった。そのため南人に多い知識人の中に不満を持つ者が多かった。

設問5 下線部aの元代に関する事項として誤っているものはどれか。

- ① 首都大都に江南から物資を運ぶため、新運河を開削した。
② 長江下流から山東半島を回って大都方面に至る海運が発達した。
③ 交鈔は宋・金・元・明で発行された紙幣の総称で、元では主要通貨となった。
④ モンゴル帝国では支配領域にジャムチをしいたが、元では中国に適用しなかった。

設問6 下線部bに関する記述で誤っているものはどれか。

- ① 唐の制度を導入して官制・地方行政制度を改め、12世紀前半までが全盛期とされる。
- ② 中国五代の諸王朝や宋と通交し、長城を築いて契丹や女真の侵入に備えた。
- ③ 禅宗諸派が興隆し、世界最古の金属活字で高麗版大蔵経が刊行された。
- ④ 倭寇の被害で国力が衰退し、倭寇討伐で名をあげた李成桂により倒された。

D 紅巾軍の一武将の朱元璋は金陵を首都として明を建国し、元を漠北に退けた。洪武帝は官制・律令制・里甲制・衛所制・賦役制などの諸制度を整備し、皇帝独裁の支配体制を確立し、王朝の基礎を築いた。科挙制が実施されて朱子学が官学になると、学問・思想の統制がしかれるようになり、朱子学は形骸化した。(う)は科挙のための手段に墮したとして朱子学を批判し、これと決別して、(え)を基本原理とする実践的な陽明学を成立させた。

設問7 空欄(う)に入る最も適切な語句はどれか。

- ① 陸九淵
- ② 司馬光
- ③ 王守仁
- ④ 李贄

設問8 空欄(え)に入る最も適切な語句はどれか。

- ① 心即理
- ② 性理大全
- ③ 理気二元論
- ④ 性即理

E 清は明の滅亡に乗じて中国に入り、明の諸制度をほぼそのまま継承して支配体制を確立した。また官吏登用法として科挙を盛んに実施し、朱子学を官学にして、儒教を尊重する姿勢をとった。一方、明末の顧炎武や黄宗羲は、空論を弄する陽明学末流に対して経世実用の学を唱えたが、その実証的研究法は清代になって発達した。これを考証学といい、康熙・雍正・乾隆の諸帝の学問奨励とあいまって全盛期をむかえ、錢大昕、戴震、段玉裁などがその代表的な学者である。

設問9 清の文化政策に関して誤った記述はどれか。

- ① 清は学者を動員して大規模な編纂事業を行い、学者の関心を政治からそらせようとした。
- ② 『四庫全書』の編纂のさい、多くの書籍が禁書として焼却された。
- ③ 清の中国支配の正当性を主張するため、雍正帝は『大義覺迷録』を作らせた。
- ④ 康熙帝は典礼否認派の入国と布教を禁止し、初めて乾隆帝はキリスト教の布教を全面的に禁止した。

II 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

パレスチナの地は古代からさまざまな勢力の支配に服してきた。

この地は古くはカナーンと呼ばれ、パレスチナという名称は南部に定住したペリシテ人に由来する。遊牧民だったヘブライ人は前1500年頃この地に定住し、前1000年頃王国を建設したが、前586年に住民の多くは移住を強制されることとなり、これ以降、ヘブライ人に代わってユダヤ人という呼称が普及した。オリエント世界を統一したイラン人(ペルシア人)のアケメネス朝は征服した異民族の風習を尊重し自治を認める政策を採り、ユダヤ人にパレスチナへの帰還を許した。こうして、ユダヤ人はイェルサレムにヤハウェの神殿を再興することができた。アケメネス朝はマケドニアのアレクサンドロスに征服され、この地はアレクサンドロスの達成した帝国の下で東西文化の合流したヘレニズム世界に組み込まれた。その後、ユダヤ人は前2世紀半ばに独立しこの地に自らの王朝を建て、領域的にも最盛期を迎えた。けれども、三回にわたるポエニ戦争によりカルタゴを滅ぼしたローマはこの地にも進出し、前1世紀半ばにはユダヤ人を実質的に支配するに至り、ローマ初代皇帝アウグストゥスの下でユダヤ人の形式的独立も終焉を迎え属州ユダヤが設置された。こうして、この地はローマの直接統治に服した。さらに、132年から135年にかけての第2次ユダヤ戦争の結果、ユダヤ人はイェルサレムから追放されるに至った。

パレスチナは、西ローマ帝国滅亡後には東ローマ帝国に支配されたが、正統カリフの時代に東ローマ帝国を破ったイスラーム勢力に支配されることとなった。^⑥第4代正統カリフが暗殺された後、シリア総督がダマスカスに開いたウマイヤ朝がこの地を支配し、次いで、8世紀以降にはこれを倒したアッバース朝が支配した。^⑦さらに、この地に対する支配はさまざまに変遷した。マムルーク出身のトルコ人やイラン人が支配し、十字軍によって一時的にキリスト教徒が支配することもあったが、イスラーム勢力による支配は復活し、16世紀からはオスマン帝国の支配に服することとなる。

オスマン帝国は第一次世界大戦において同盟国側に属し、これに対抗するためイギリスはアラブ民族とユダヤ人国家建設運動の双方にパレスチナを含む地域の独立支援を約束して協力させ、^⑧現在に至る両者の紛争の原因を生み出した。第二次世界大戦後、国連総会はパレスチナのユダヤ・アラブ両国家への分割を決議し、イスラエルが建国された。この結果、イスラエルとアラブ国家の紛争は現在に至るまで絶えることがない。^⑨

設問1 下線部①に関し、ヘブライ人が建設した王国について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ヘブライ王国第2代の王であるダヴィデは、イェルサレムを都とし、ヤハウエの神殿を建築した。
- イ ヘブライ王国第3代の王であるソロモンは、通商交易をさかんにし、「ソロモンの栄華」を誇ったが、その死後、王国は分裂した。
- ウ ヘブライ王国の分裂後北部に建てられた王国であるイスラエル王国は、アッシリアにより滅ぼされた。
- エ ヘブライ王国の分裂後南部に建てられた王国であるユダ王国は、新バビロニアにより滅ぼされた。

設問2 下線部②に関し、アケメネス朝について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア キュロス2世がメディアを滅ぼして自立し、リディア、新バビロニアを滅ぼして、帝国の基礎を築いた。
- イ カンピュセス2世がエジプトを征服し、全オリエントの統一に成功した。
- ウ ダレイオス1世は「王の目」「王の耳」と呼ばれる王直属の監察官において、州の長官であるサトラップの動向を報告させた。
- エ アケメネス朝の首都は、当初サルデスにおかれたが、やがてバルセポリスに遷都された。

設問3 下線部③に関し、アレクサンドロス帝国の分裂後に前2世紀半ばまでイェルサレムを支配した王朝名を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ハスモン朝 イ セレウコス朝 ウ アンティゴノス朝 エ プトレマイオス朝

設問4 下線部④に関し、カルタゴの滅亡を目撃した歴史家を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ポリビオス イ リウィウス ウ タキトゥス エ プリニウス

設問5 下線部⑤に関し、第2次ユダヤ戦争の結果ユダヤ人をイェルサレムから追放したローマ皇帝を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ネルウァ イ トラヤヌス ウ ハドリアヌス エ マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス

設問6 下線部⑥に関し、シリア、エジプトに対する支配を東ローマ帝国から奪った正統カリフを以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アブー＝バクル イ ウマル ウ ウスマーン エ アリー

設問7 下線部⑦に関し、アッバース朝について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア アブー＝アルアッバースが開いた王朝で、シーア派や非アラブ系改宗者の不満を利用して建国されたが、後にシーア派を弾圧し、スンナ派を擁護した。
- イ アッバース朝第2代カリフであるマンスールは、行政機構を整備して中央集権体制の確立をはかり、新都バグダードを造営した。
- ウ アッバース朝第5代カリフであるハールーン＝アッラシードは、学芸を奨励しイスラーム文化の黄金時代を現出し、『千夜一夜物語』にも登場する。
- エ モンケ＝ハンの命により西アジア遠征を行ったバトゥにより滅亡した。

設問8 下線部⑧に関し、パレスチナを巡るイギリスの対処について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 1915年、イギリスの駐エジプト高等弁務官マクマホンは、アラブの指導者フセイン（フサイン）に、戦争協力を条件として、アラブ人の独立を約束した。
- イ 1916年、イギリス・フランス・ロシアの間でサイクス・ピコ協定が結ばれ、オスマン帝国分割やパレスチナの国際管理などが定められた。
- ウ 1917年、イギリス首相バルフォアは、ユダヤ人の戦争協力に感謝して、パレスチナにユダヤ人国家の建設を約束した。
- エ 1920年、イギリスは、パレスチナに対し、国際連盟の監督の下に委任統治を行うこととなった。

設問9 下線部⑨に関し、イスラエルとアラブ諸国との紛争について明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 1948年5月にイスラエルとその建国を認めないアラブ諸国の間でパレスチナ戦争が生じたが、アラブ側が大敗し、翌年には休戦となり、イスラエルはパレスチナ分割案以上の土地を獲得した。
- イ 1956年10月にイスラエルは、エジプトによるスエズ運河国有化宣言に対し、エジプトに侵攻したが、国連の即時停戦決議とソ連によるエジプト支援声明によって、翌年には撤退した。
- ウ 1967年6月、イスラエルはエジプト・シリア・ヨルダンを攻撃して圧勝し、シナイ半島・ゴラン高原・ヨルダン川西岸・ガザ地区などを占領した。
- エ 1973年10月、エジプト・ヨルダンがイスラエルに先制攻撃し緒戦では勝利を得たが、イスラエルはこれに反撃し最終的には勝利を収めた。

Ⅲ 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

北ヨーロッパのスカンディナヴィア半島やユトランド半島には、古来、ゲルマン人の一派に属するノルマン人が広く住みついていた。このノルマン人は①8世紀後半ごろから商業活動や海賊行為を目的として、ヨーロッパ各地の沿岸に進出しはじめ、ヴァイキングと総称されて恐れられた。一般的に、4世紀後半に起きたゲルマン人の②ゴート族・ヴァンダル族など東ゲルマン諸族の大移動や、これに続く③フランク族・アングル族・サクソン族など西ゲルマン民族の移動をゲルマン人の第1次民族大移動とすれば、このノルマン人の進出は第2次民族大移動とみなすことができる。ノルマン人は、ヨーロッパの沿岸部から河川を経由して内陸部に進出しさまざまな地域に拠点を形成したが、ノルマン人の支配地は公国や王国などに発展して、古代・中世ヨーロッパ世界に大きな影響を及ぼした。

その後ノルマン人の居住地にもデンマーク・スウェーデン・ノルウェーの諸王国がたてられ、これらの諸国はキリスト教化されることでヨーロッパ世界に組み込まれた。この中で最初に台頭したのは、デンマークである。A 王の時代に、イングランドを征服し、さらにノルウェーを併合した。14世紀後半にはデンマークはバルト海に進出してハンガ④同盟諸都市と争い、14世紀末にはカルマル同盟のもとで、北欧諸国が一大勢力となった。しかし、16世紀前半にはス

ウェーデンが独立して、17世紀のグスタフ＝アドルフのときに、三十年戦争に参加して、バルト海の制海権の確保を図った。スウェーデンはその後も発展し、**B**のときに北方戦争を展開したが、これら北欧諸国にかわって、次のバルト海の覇者となったのは、ロシアであった。ロシアでは、スラブ人を中心に国家形成がすすめられ、17世紀末に帝位についたピョートル1世は軍備の拡大と近代化の政策を推進し、東のシベリア経営に乗り出したほか、南方ではオスマン帝国に圧力をかけ、アゾフ海にも進出した。さらに18世紀後半には、女帝エカチェリーナ2世が啓蒙専制政治を実施して中央集権的体制を強化した。このようなロシアの勢力や領土拡大にともなって、その後の北欧諸国はつねにロシアの脅威のもとにおかれることになった。

設問1 **A**に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 エグバート 2 エドワード 3 ユード 4 カヌート (クヌート)

設問2 **B**に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 カール4世 2 カール12世 3 ヨーゼフ2世 4 クリスチャン4世

設問3 下線部①に関連して、次の1～4の中から、8世紀後半におきた事件や出来事に関する説明を一つ選びなさい。

- 1 フランス中東部に、ベネディクト派のクリュニー修道院が設立された。
2 レヒフェルトの戦いで、オットー1世がマジヤール人を撃退した。
3 ピピンが、獲得したラヴェンナなどを教皇に寄進した。
4 ヴェルダン条約が結ばれて、フランク王国が3分割された。

設問4 下線部②に関連して、ゴート族のうち、東ゴート人によってイタリアに建国された東ゴート王国を滅亡させたのは次の1～4の誰か。一人を選びなさい。

- 1 オドアケル 2 ユスティニアヌス帝 3 アラリック 4 カール＝マルテル

設問5 下線部③に関連して、フランク族・アングル族・サクソン族に関して述べた文の中で誤っているものを次の1～4の説明の中から、一つ選びなさい。

- 1 メロヴィング家のクローヴィスはフランク族を統一して、フランク王国を建国した。
2 アングル族・サクソン族はブリタニア南部に、七王国を建設した。
3 フランク王国カロリング朝のカール大帝は、ローマ教皇レオ3世から、西ローマ皇帝の帝冠を受けた。
4 アーサー王は、アングル族・サクソン族を代表する伝説的英雄である。

設問6 下線部④に関連して、ハンザ同盟の盟主として中心的な役割を果たした都市は次の1～4のどれか。一つ選びなさい。

- 1 アウクスブルク 2 ヴュルツブルク 3 リューベック 4 アントウェルペン

設問7 下線部⑤に関連して、キエフ公国を初めとするロシアの公国や王朝の支配者が、古いものから時代順に並んでいるものを次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 イヴァン3世 → イヴァン4世 → ウラディミル1世 → ミハイル＝ロマーノフ
2 ウラディミル1世 → イヴァン3世 → ミハイル＝ロマーノフ → イヴァン4世
3 イヴァン3世 → ミハイル＝ロマーノフ → ウラディミル1世 → イヴァン4世
4 ウラディミル1世 → イヴァン3世 → イヴァン4世 → ミハイル＝ロマーノフ

設問8 下線部⑥に関連して、エカチェリーナ2世時代の政治や事件に関する次の1～4の説明の中から、誤っているものを一つ選びなさい。

- 1 エカチェリーナ2世の時代に、ステンカ＝ラーズンを中心としたコサックの反乱が起きた。
- 2 エカチェリーナ2世は、ヴォルテールらとの文通を通じて教養を高め、学芸の保護や教育改革を行った。
- 3 エカチェリーナ2世の時代に、ラクスマンが通商を求めて、根室や函館に来航した。
- 4 エカチェリーナ2世は、本来ドイツ生まれでロシア皇帝妃であったが、クーデタによって皇帝となった。

IV 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

船舶による海上輸送は、馬やラクダなどを利用した陸路の輸送に比べて、一度に大量の物資を輸送することができる利点があり、海路を利用した交易は古代から盛んにおこなわれていた。陸路である「草原の道」、「オアシスの道」とともに東西交易路の一つとして知られる①「海の道」は、地中海から紅海やペルシア湾を通り、アラビア海からインド洋沿岸に達し、さらに東南アジアを経由して中国南部にいたる航海路である。唐代以降は、②ムスリム商人の活躍などもあって、東西交通の主要ルートとなった。

中期ビザンツ帝国のころ、東方ではイスラーム世界が勢力を拡大した。ビザンツ帝国や西ヨーロッパではイスラーム世界に脅威を感じ、イスラーム教を敵視したものの、ビザンツ帝国とイスラーム世界との貿易はなおも活発におこなわれ、両者を結ぶ地中海貿易と文化の交流は途絶えることがなかった。11世紀以降には、イスラーム世界の著作が次々とアラビア語からラテン語へと翻訳されるなど、③イスラーム文化はその後のヨーロッパの文化形成や思想、さらには近代科学の誕生に大きな影響を与えた。一方、西ヨーロッパでは、封建社会が安定した10～11世紀ごろから再び商業が活性化しはじめた。その交易の範囲も拡大し、とくに④十字軍などの影響により遠方との交易が開かれると、遠隔地商業が発達していった。地中海では、十字軍を支援して発展したヴェネツィアやジェノヴァといったイタリアの海港都市によって東方貿易が盛んにおこなわれ、⑤これらの都市と地中海東岸・エジプトの諸港市とを結ぶ地中海交易圏も形成された。

十字軍以来、ヨーロッパと東方世界の交流が活発となるなか、15～16世紀にオスマン帝国がアジア・アフリカ・ヨーロッパにまたがる大帝国を築いた。オスマン帝国が地中海東岸を占領し東西貿易路をおさえたため、ヨーロッパ人にとっては、オスマン帝国を介さないアジア航路の開拓に関心が寄せられた。莫大な利益が見込まれるという経済的動機に加え、キリスト教布教などの動機、さらにはこの時代の造船技術や航海術の発達などの要因もあり、⑥新航路開拓を中心としたヨーロッパ人の世界進出が急速に進んでいった。新航路開拓事業をリードしたのは、イベリア半島西部で13世紀半ばまでにレコンキスタを達成し中央集権化を完成させた⑦ポルトガルであり、すでに15世紀前半にアフリカ西岸の探検事業を始めていた。これに続き、⑧スペインも、15世紀末にレコンキスタを成し遂げると、すぐに海外進出に取り組んだ。このポルトガル、スペインなどの世界進出により商業・貿易の中心は大西洋沿岸へと移り、北イタリア諸都市を中心とする地中海貿易は、長らく保ってきたその地位を低下させることとなった。

設問1 下線①に関連して、以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ ヨーロッパとインドとの交易は古く1～2世紀ごろにインド洋の季節風を利用した季節風貿易が栄え、南インドが海の道を利用した中継貿易の中心地となった。
- ロ 1世紀中頃、サータヴァーハナ朝の対ローマ貿易が活発になり、インド洋・アラビア海・紅海の航海案内書である『エリュトウラー海案内記』がインド人により著された。
- ハ 8世紀ごろからムスリム商人が海上に進出し、広州や泉州などの中国沿岸に居留地を形成して交易が活発化した。
- ニ 中国で飲茶の習慣の広まりにより生産が拡大された陶磁器が9世紀ごろから大量に西方に運ばれたため、海の道は「陶磁の道」ともいわれる。

設問2 下線②に関連して、インド洋における人や物資の運搬にムスリム商人によって広く利用されたことで知られる三角帆の船を次の中から一つ選びなさい。

- イ カラック船 □ ジャンク船 ハ ダウ船 ニ ガレー船

設問3 下線③に関連して、イスラーム文化の担い手とその著作を示した以下の組み合わせのうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- イ イブン＝シーナー 『医学典範』
□ イブン＝ハルドゥーン 『世界史序説』
ハ タバリー 『幸福への知恵』
ニ ウマル＝ハイヤーム 『ルバイヤート』

設問4 下線④に関連して、以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ 第1回十字軍によって建国されたエルサレム王国は、12世紀末に最後の拠点であったアッコが陥落し、滅亡した。
□ アイユーブ朝の建国者であるサラディンはエルサレムを回復し、第3回十字軍に打撃を与えた。
ハ 十字軍を率いた神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世は、アイユーブ朝との交渉により、一時エルサレムを回復した。
ニ フランス王ルイ9世の主導で、海路によりそれぞれエジプトとチュニスに向けておこなわれた2回の十字軍は、いずれも成功しなかった。

設問5 下線⑤に関連して、以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ 東方貿易において、おもにヨーロッパ側は香辛料・毛織物などを、ムスリム商人側は絹織物や銀を輸入した。
□ ムスリム商人団であるカーリミー商人は、アイユーブ朝からマムルーク朝時代の前半にカイロやアレクサンドリアを拠点として活動した。
ハ 東方貿易で繁栄したこれらのイタリア港市は、おもに12世紀以降、市民自身が市政を担うコムーネとよばれる都市共和国を形成した。
ニ 地中海地域とともに2大商圏を形成したのは北海・バルト海地域であり、これらを結びほぼ中間に位置するシャンパーニュ地方は定期市で繁栄した。

設問6 下線⑥に関連して、以下の記述のうち、明白に誤っているものを一つ選びなさい。

- イ ジョアン1世の子であるエンリケ航海王子が派遣した探検隊は、1431年にアゾレス諸島を、1445年にはヴェルデ岬を発見した。
□ ヴァスコ＝ダ＝ガマはジョアン2世の命をうけ、1497年にリスボンを出発し、喜望峰を経由して1498年にカリカットに到達した。
ハ スペインの探検家バルボアは、1513年にパナマ地峡を横断して太平洋に到達し、これを「南の海」と命名した。
ニ マゼランは、カルロス1世の支援をうけ、1519年にセビリヤを出発し、南アメリカ南端に水路を発見した後、太平洋を横断して現在のフィリピン諸島に到達した。

設問7 下線⑦に関連して、ポルトガルの植民地と貿易に関する以下の出来事のうち、発生順に並べたときに最後に当たるものを一つ選びなさい。

- イ ホルムズ島を占領する。
- ロ ゴアを占領する。
- ハ マカオに居住権を獲得する。
- ニ マラッカを占領する。

設問8 下線⑧に関連して、以下の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- イ スペインの女王イサベルの支援を受けたコロンブスは、コペルニクスの地球球体説を信じ、大西洋を西航してインドを目指した結果、バハマ諸島に到達した。
- ロ 現在のペルーを中心としたアンデス高原一帯にクスコを首都として栄えたインカ帝国は、スペインの征服者コルテスによって滅ぼされた。
- ハ イグナティウス＝ロヨラとともにイエズス会を創立したフランシスコ＝ザビエルは、インド、東南アジア、さらに日本で布教したのち、帰国途上にゴアで病死した。
- ニ 総督レガスピは、フィリピンのルソン島に港市マニラを建設し、スペインはこれをアジア貿易の拠点として利用した。

V 20世紀初頭に提唱された民族自決の考え方は、その後20世紀前半までの間に世界にどのように波及していったか。それについて次の語句をすべて用いて200字以上250字以内で記述しなさい。なお、句読点、数字は1字に数え、所定の語句には必ず下線を付しなさい。

平和に関する布告

十四カ条の平和原則

三・一独立運動

国際連合

[以下余白]